

北大セミナー i n 旭川

今年で7回目となる「北大セミナー i n 旭川」を7月16日（月）海の日に開催しました。高大連携の一環として行っている本事業は、大学での最新の講義や実験、研究内容等に間近に触れることで、学部の特徴や大学卒業後のライフスタイルをより深く考える機会を持つことを目的に行っています。この取組はキャリア教育にも位置付けられることから、本校だけでなく、帯広、北見、函館地区でも実施され、多くの高校生が参加しています。



全体講演では北大総長から「進化する北海道大学」と題して、地元の総合大学としてのミッションやビジョンについてお話がありました。続いて、2011年度入試から導入された総合入試制度についての説明があり、管内外から集まった延べ700名余りの高校生は



真剣に耳を傾けていました。

分科会では15の講座が開設され、それぞれの会場で特色ある講義、実験、ディスカッション等が行われました。個々に興味関心のある講座に参加した高校生は、専門の大学講師陣の熱い講義と斬新な内容に大きな刺激を受けた様子でした。

メディカル講座（前期）



医進類型指定事業の一環として、7月21日（土）に「メディカル講座」を実施しました。

今回は、講師に北海道大学医学博士吉岡充弘先生をお招きし、医療を目指す上での心構えと最新医療を中心にご講演をいただきました。吉岡先生は本校のOBでもいらっしゃり、同じ志を持つ後輩への熱い語りに、100名余りの参加生徒はみな釘付けになっていました。

前半の講義では、新研修医制度に関する説明をいただいた後、研修医についてのビデオを観賞しました。医療現場の厳しい現実と理想のギャップに、単に学習だけではなく人間としての修練が必要なことに気づかされたことと思います。医師としての総合的な知識・技術をしっかりと身につけ、人の命を預かる重責にどれほど強い意志が必要かを生徒たちは改めて痛感した様子でした。

後半の講義では、「宇宙と医学」と題し、最近の医療がどこまで進んでいるかについてのお話がありました。無重力状態の中では、カルシウムの減少量と筋力の衰退が早いことから、その中で新薬を開発することは、重力のかかる生活圏においてより効果が期待できるというものでした。医学の進歩は早く、常に先を見据えながら最新の医療に関心を持つことや、日頃から様々な情報に耳を傾けることの重要性を改めて認識するよい機会となりました。

